

2021年7月16日～7月31日まで、中華人民共和国の福州において、史上初のオンラインで、第44回世界遺産委員会(拡大*)が開催されました。

※ 新型コロナウイルスの感染拡大を受け2020年の世界遺産委員会が開催されなかったため2年分の審議となった。

世界遺産登録数

新規登録遺産数

分類別合計

文化遺産：29件

897件

自然遺産：5件

218件

複合遺産：0件

39件

総数

1,154件

危機遺産リスト登録数

リスト入り1件

危機遺産 総数

52件

リスト脱した1件

◆ 危機遺産リスト入りした遺産

- ① ロシア・モンタナの鉱山景観【ルーマニア】

◆ 危機遺産リストを脱した遺産

- ① サロンガ国立公園【コンゴ民主共和国】

★ リヴァプール海商都市【英国】……世界遺産リストからも削除された

※ 危機遺産の一覧表は、本資料のP6～8に掲載してあります。

遺産保有国数と登録数

◆ 新しく世界遺産保有国となった国

今回新たに世界遺産保有国となった国はなく、2021年8月現在、194の加盟国中、**167の国と地域**に世界遺産が存在します。

◆ 上位遺産保有国と保有遺産数

001. イタリア共和国【58件】
002. 中華人民共和国【56件】
003. ドイツ連邦共和国【51件】
004. スペイン【49件】
004. フランス共和国【49件】

日本の遺産数は25件で、11番目に世界遺産を多くもつ国である。

第45回開催地(予定)

2022年に開催される第45回世界遺産委員会はロシア連邦のカザンで開催予定。

文化遺産

(※ 遺産名は仮訳です)

遺産名	保有国名	登録基準
ヨーロッパの大温泉都市群	オーストリア連邦、ベルギー王国、チェコ共和国、フランス共和国、ドイツ連邦共和国、イタリア共和国、英国	(ii) (iii)
ローマ帝国の境界線:ドナウのリーメス(西側部分)	オーストリア連邦、スロバキア共和国、ドイツ連邦共和国	(ii) (iii) (iv)
慈善のための居住地群	ベルギー王国、オランダ王国	(ii) (iv)
ロベルト・ブーレ・マルクスによる庭園	ブラジル連邦共和国	(ii) (iv)
泉州:宋・元時代の中国における世界の中心地	中華人民共和国	(iv)
コルドゥアン灯台	フランス共和国	(i) (iv)
ダルムシュタットのマティルデンフーエ(マティルダの丘)	ドイツ連邦共和国	(ii) (iv)
テランガーナ州のカカティーヤ・ルドレシュワラ(ラマツパ)寺院	インド	(i) (iii)
イラン縦貫鉄道	イラン・イスラム共和国	(ii) (iv)
パドヴァの14世紀のフレスコ画群	イタリア共和国	(ii)
チャンキーヨの天文考古学遺産群	ペルー共和国	(i) (iv)
ロシア・モンタナの鉱山景観(危機遺産)	ルーマニア	(ii) (iii) (iv)
ヒマーの文化的エリア	サウジアラビア王国	(iii)
プラド通りとブエン・レティーロ:芸術と科学の景観	スペイン	(ii) (iv) (vi)
アルスランテペ古墳	トルコ共和国	(iii)
技術者エラディオ・ディエステの作品:アトランティーダの教会	ウルグアイ東方共和国	(iv)
アリカ・イ・パリナコータ州におけるチンチョーロ文化の集落と人工ミイラ製造技術	チリ共和国	(iii) (v)
コートジボワール北部にあるスーダン様式のモスク群	コートジボワール共和国	(ii) (iv)

遺産名	保有国名	登録基準
ニース:リヴィエラの冬のリゾート都市	フランス共和国	(ii)
シュパイア、ヴォルムス、マインツのユダヤ人関連遺産群	ドイツ連邦共和国	(ii) (iii) (vi)
ローマ帝国の境界線:低地ゲルマニアのリーメス	ドイツ連邦共和国、オランダ王国	(ii) (iii) (iv)
ドーラヴィーラ:ハラツパーの都市	インド	(iii) (iv)
ホウラマン/ウラマナの文化的景観	イラン・イスラム共和国	(iii) (v)
ボローニャのポルティコ群	イタリア共和国	(iv)
北海道・北東北の縄文遺跡群	日本国	(iii) (v)
サルト:寛容と都市的ホスピタリティの場	ヨルダン・ハシェミット王国	(ii) (iii)
オネガ湖と白海の岩絵群	ロシア連邦	(iii)
リュブリャナにあるヨジェ・プレチニクの作品群:人間中心の都市デザイン	スロベニア共和国	(iv)
ウェールズ北西部の粘板岩の景観	英国	(ii) (iv)

自然遺産

遺産名	保有国名	登録基準
コルキスの熱帯雨林群と湿地群	ジョージア	(ix) (x)
奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島	日本国	(x)
ゲボル:韓国の干潟	大韓民国	(x)
ケーン・クラチャン森林関連遺産群	タイ王国	(x)
イヴィンド国立公園	ガボン共和国	(ix) (x)

■ 登録範囲拡大

文化遺産

遺産名	保有国名	登録基準
オランダの水利防衛線群 (旧遺産名「アムステルダム防衛線の要塞」)	オランダ王国	(ii) (iv) (v)
ポポカテペトル山麓の16世紀初期の修道院群 (トラスカラの聖母被昇天大聖堂とフランシスコ会修道院の建造物群を追加)	メキシコ合衆国	(ii) (iv)

自然遺産

遺産名	保有国名	登録基準
カルパティア山脈と他のヨーロッパ地域のブナ原生林	ボスニア・ヘルツェゴビナ、チェコ共和国、フランス共和国、イタリア共和国、北マケドニア共和国、ポーランド共和国、スロバキア共和国、スイス連邦の地域を追加 (他、ウクライナ、ドイツ連邦共和国、アルバニア共和国、オーストリア共和国、ベルギー王国、ブルガリア共和国、クロアチア共和国、ルーマニア、スロベニア共和国、スペインを含む全18カ国)	(ix)

世界遺産リストからの削除

遺産名	保有国名	登録基準
リヴァプール海商都市	英国	(ii) (iii) (iv)



ヨーロッパの大温泉都市群

© Česká centrála cestovního ruchu – CzechTourism



奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島

Amami-Oshima Island, Tokunoshima Island, Northern part of Okinawa Island, and Iriomote Island

自然遺産

登録年

2021年

登録基準

(x)

▶ 生態系の多様性が特徴の島々

「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」は、日本列島の九州南端から台湾までの海域の約1,200kmに点在する琉球列島のうち、中琉球の奄美大島と徳之島、沖縄島、南琉球の西表島にある5つのエリアで構成される。徳之島だけ2つのエリアに分かれている。2011年に登録された「小笠原諸島」以来、10年ぶりに日本で5番目の自然遺産として登録された。

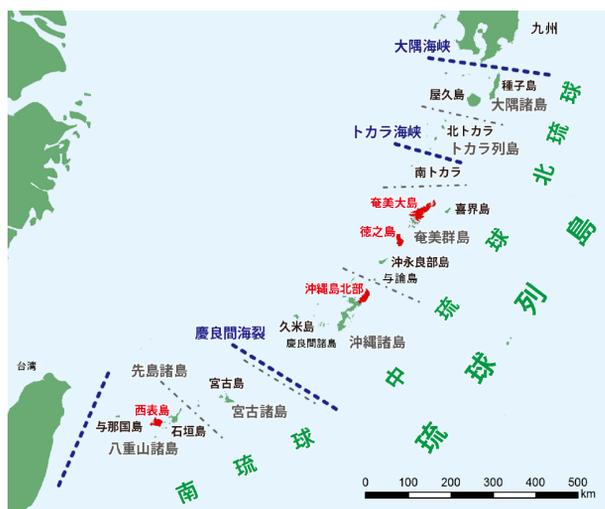
5つのエリアは、黒潮と亜熱帯性高気圧の影響を受ける、温暖で多湿な亜熱帯性気候で、主に常緑広葉樹多雨林に覆われている。世界の生物多様性ホットスポットの1つである日本の中でも、**生物多様性が極めて高い地域である中琉球と南琉球を代表するエリア**で、多くの種が生息する。また、絶滅危惧種や中琉球・南琉球の固有種が多く、その種の割合も高い。

かつて大陸と陸続きだったこの地に取り残された種が、大陸でオリジナルの種が絶滅した後も進化を続けた**遺存固有種**や、独特な何かを遂げた種の例が多く見られる。4島の生物多様性の特徴は相互に関連しており、中琉球と南琉球が大陸島として形成された地史の結果として生じてきた。中琉球と南琉球では種分化や固有化のパターンが異なっている。4島に生息する代表的な生物には、ヤンバルクイナや**アマミノクロウサギ**、イリオモテヤマネコ、ルリカケスなどがある。

登録基準は(x)「絶滅危惧種を含む生物多様性」で、日本では「知床」に続いて2件目。日本の自然遺産では唯一、登録基準(ix)が認められない遺産となった。登録基準(ix)は、2018年に推薦書を取り下げた時は入れていたものの、IUCNからその価値は認められないと否定されたため、今回の推薦では外していた。



(写真：環境省)



推薦書より

日本国



北海道・北東北の縄文遺跡群

Jomon Prehistoric Sites in Northern Japan

文化遺産

登録年

2021年

登録基準

(iii)(v)

▶ 縄文時代の定住生活と社会システムを伝える遺跡群

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、北海道、青森県、秋田県、岩手県の4道県に点在する17の先史時代の遺跡で構成されるシリアル・ノミネーション・サイト。この17資産で、紀元前13,000年頃から前400年頃の日本で、人々が採集や漁労、狩猟を行いながら定住した縄文時代の集落や生活、精神文化などを証明している。

縄文時代を「定住の開始」「定住の発展」「定住の成熟」の3つに分け、更にそれぞれを2つに分けた6つの時代区分に、青森県の**三内丸山遺跡**や秋田県の**大湯環状列石**など、17の構成資産を分類している。

登録された一帯の地形は、山地や丘陵、平地、低地など変化に富んでおり、内湾または湖沼及び水量豊富な河川もあった。また、ブナ林を中心とする冷温帯落葉広葉樹の森林が広がり、海洋では暖流と寒流とが交差し豊かな漁場が生まれ、サケ・マスなどの回遊魚が遡上する恵まれた環境にあった。人々は、こうした環境のもとで食料を安定して確保するとともに、約15,000年前には土器を使用して定住を開始した。その後、1万年以上にわたって、気候の温暖化や寒冷化及びそれに伴う海進・海退といった環境の変化に適応しながら、採集や漁労、狩猟を基盤とした生活を続けた。

定住開始の初期から高度な精神文化を構築しており、墓地や祭祀・儀礼の場である捨て場、盛土、環状列石などを構築し、祖先崇拝や自然崇拝とともに、豊穡への祈念や互いの絆の確認などを行っていた。縄文時代は日本独自の時代区分で、中国東北部やロシア極東地域では、旧石器時代から青銅器時代の一部まで、中国大陸部の黄河以南では、旧石器時代から春秋戦国時代までに当たる。またヨーロッパでは、旧石器時代から鉄器時代及び古代ローマ帝国の成立までの幅広い時代に当たる時代区分である。日本では、寒冷な気候が長く続く旧石器時代と稲作農耕文化の弥生時代に挟まれた時代である。



大湯環状列石（秋田県）



三内丸山遺跡（青森県）



リヴァプール海商都市 【世界遺産リストから削除】

Liverpool – Maritime Mercantile City

文化遺産

登録年

2021年

登録基準

(iii)(v)

▶ 都市開発により世界遺産リストから削除された

「リヴァプール海商都市」は、2021年の第44回世界遺産委員会において、世界遺産としての顕著な普遍的価値(OUV)が損なわれたとして、世界遺産リストから削除された。世界遺産リストから削除された遺産は、2007年のオマーン「アラビア・オリックスの保護地区」と、2009年のドイツ連邦共和国「ドレスデン・エルベ渓谷」に続いて3件目。

2004年に世界遺産登録された「リヴァプール海商都市」は、ウォーター・フロント開発計画による景観悪化などの理由で2012年の第36回世界遺産委員会において危機遺産リストに記載された。以来、状況報告を受けた審議が行われていたが、OUVや真正性、完全性の保護がなされなかつただけでなく、バッファー・ゾーンでの開発や、ブラムリー・ムーア・ドックにおける新たなサッカー・スタジアムの建設計画により、OUVが損なわれたと判断された。

第44回世界遺産委員会では議論が白熱し、最終的には秘密投票が行われた。有効投票数は18(欠席1、無効票2)で、リストからの削除への賛成13、反対5で、賛成数が有効投票数の3分の2を超えたために、リストからの削除が決定された。



危機遺産

遺産名	保有国名	登録年
エルサレムの旧市街とその城壁群	エルサレム(ヨルダン・ハシェミット王国による申請遺産)	1982
チャンチャンの考古地区	ペルー共和国	1986
ニンバ山厳正自然保護区	ギニア共和国及びコートジボワール共和国	1992
アイールとテネレの自然保護区群	ニジェール共和国	1992
ヴィルンガ国立公園	コンゴ民主共和国	1994
ガランバ国立公園	コンゴ民主共和国	1984~92, 1996
オカピ野生動物保護区	コンゴ民主共和国	1997
カフジ・ビエガ国立公園	コンゴ民主共和国	1997
マノヴォー-グンダ・サン・フローリス国立公園	中央アフリカ共和国	1997
ザビードの歴史地区	イエメン共和国	2000
聖都アブー・メナー	エジプト・アラブ共和国	2001
ジャームのミナレットと考古遺跡群	アフガニスタン・イスラム共和国	2002
バーミヤン渓谷の文化的景観と古代遺跡群	アフガニスタン・イスラム共和国	2003
アッシュル(カラット・シェルカット)	イラク共和国	2003
コロとその港	ベネズエラ・ボリバル共和国	2005
コソボの中世建造物群	セルビア共和国	2006
古代都市サーマッラー	イラク共和国	2007
ニョコロ・コバ国立公園	セネガル共和国	2007
カスピのブガンダ王国の王墓	ウガンダ共和国	2010
アツィナナナの熱帯雨林	マダガスカル共和国	2010
キレーネの考古遺跡	リビア	2016

遺産名	保有国名	登録年
エヴァーグレーズ国立公園	アメリカ合衆国	1993～2007, 2010
スマトラの熱帯雨林遺産	インドネシア共和国	2011
リオ・プラタノ生物圏保存地域	ホンジュラス共和国	1996～2007, 2011
パナマのカリブ海側の要塞群:ポルトベロとサン・ロレンツォ	パナマ共和国	2012
アスキア墳墓	マリ共和国	2012
伝説の都市トンプクトゥ	マリ共和国	1990～2005, 2012
アレppoの旧市街	シリア・アラブ共和国	2013
クラック・デ・シュヴァリエとカラット・サラーフ・アッディーン	シリア・アラブ共和国	2013
古代都市パルミラ	シリア・アラブ共和国	2013
シリア北部の古代集落群	シリア・アラブ共和国	2013
隊商都市ボスラ	シリア・アラブ共和国	2013
ダマスカスの旧市街	シリア・アラブ共和国	2013
東レンネル	ソロモン諸島	2013
セルー動物保護区	タンザニア連合共和国	2014
ポトシの市街	ボリビア多民族国	2014
オリーブとワインの地ーバティールの丘:南エルサレムの文化的景観	パレスチナ自治政府	2014
サナアの旧市街	イエメン共和国	2015
城壁都市シバーム	イエメン共和国	2015
円形都市ハトラ	イラク共和国	2015
シャフリサブズの歴史地区	ウズベキスタン共和国	2016
ジェンネの旧市街	マリ共和国	2016
ガダーミスの旧市街	リビア	2016

遺産名	保有国名	登録年
サブラータの考古遺跡	リビア	2016
タドラールト・アカークスの岩絵遺跡群	リビア	2016
レプティス・マグナの考古遺跡	リビア	2016
ナン・マトール:ミクロネシア東部の儀礼的中心地	ミクロネシア連邦共和国	2016
ウィーンの世界遺産地区	オーストリア共和国	2017
ヘブロン:アル・ハリールの旧市街	パレスチナ自治政府	2017
トゥルカナ湖国立公園群	ケニア共和国	2018
カリフォルニア湾の島々と自然保護区群	メキシコ合衆国	2019
ロシア・モンタナの鉱山景観	ルーマニア	2021



ロシア・モンタナの鉱山景観
© Daniel Vrabioiu



ヘブロン:アル・ハリールの旧市街
© Firas AL_Hashlamoun